

第2回佐賀県英語学力向上対策検討委員会における主な意見 「言語活動の質を高めるためにはどのような取組を行っていくか」

R7.2.12 佐賀県教育委員会事務局学校教育課

(1) 「言語活動」の条件について

- ・言語活動が何たるかを、認知すること。
(例) Q&A、パターンプラクティス、練習、原稿を読み上げる発表と区別すること。
- ・「言語活動」は、子どもに言いたい、伝えたいことがあり、自己決定や判断をする場面があること。
- ・覚えることにエネルギーを使うのではなく、人に伝えることにエネルギーを使うこと。
英語を不完全ながらも、使いながら覚えていく。
- ・子どもがやってみたくくなるような言語活動を設定すること。

(2) 授業改善・家庭学習の充実について

- ・英語学習に時間を十分に使うこと。
- ・授業では言語活動を充実させ、家庭学習で知識・技能を身に付けるための意味のある反復をするなど学校と家庭とトータルで見て、生徒の学習活動を考える。
- ・やり取りの数を増やすこと。Teacher's Talkで前時に習った表現を扱う。
Small Talkで「あなたはどうか?」と生徒に問いかけ、教師と生徒をつなげたり、生徒同士をつなげたりする。

(3) 思考ツールの効果的な活用について

- ・事実や自分の考え、気持ちなどを整理するために思考ツールを使う。
- ・言いたいことを簡単な言葉や具体で伝えるために思考ツールを使う。

(4) 今後の課題

- ・提案された育てたい子ども像が抽象的な表現であるため、具体的な姿を、数値を用いて先生方に示したり、CAN-DOリストの形で子供に示したりすることも大切。
- ・研修の内容を参加者だけでなく、県全体にも共有し、全体の学びとすること。